

光太郎ポータル

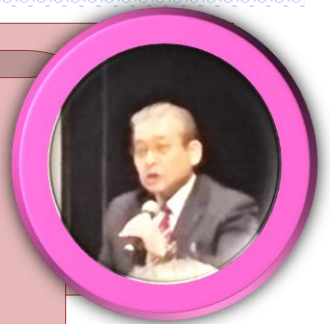
高村光太郎記念館通信 第25号 令和2年3月17日(火)

大船渡市市民講座 高村光太郎の世界

第 1 回

光太郎とクラシック音楽

高村光太郎記念館 館長 藤原 睦^{まこと}



11月18日(月)、大船渡市民文化会館リアスホールを会場に、大船渡市民の皆様にお集まりいただき当館館長の講話が行なわれました。

彫刻家、詩人として有名な高村光太郎ですが、料理や音楽にも造詣が深く、当代一級の知識人です。クラシック音楽の巨匠、バッハとベートーヴェンに関わる詩も書いています。

詩『ブランデンブルグ』は、バッハの協奏曲名、『二つに裂かれたベエトオフエン』に登場するのはベートーヴェンの交響曲第9番第4楽章や、音楽の都ウィーンのこと。

他にも光太郎が好む音楽として、クラシックでは、ベルリオーズ、サン・サーンス、ドビュッシーなど。シャンソンでは、歌手のアリステイド・ブリュアンなどをあげています。

今講座では、これまでとは違った角度から、光太郎の世界に近づいてみました。



『光太郎レシピ』

講座後半は当館職員による、山荘での光太郎の食事について、日記をもとに再現した料理の数々を紹介しました。

花巻では自給自足の生活を送ったものの、ニューヨーク・パリ・ロンドンに留学経験を持つ光太郎は、美食家で食にも繊細な人でした。光太郎の食卓には当時珍しい食材やハイカラなメニューが登場します。



第 2 回

サンタになった高村光太郎先生

花巻高村光太郎記念会 理事 浅沼 隆



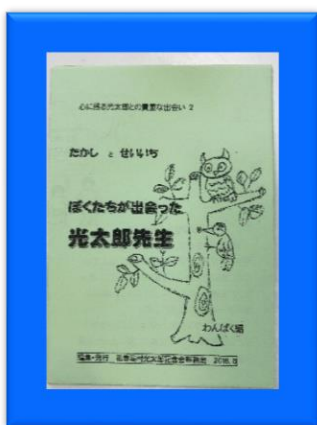
12月18日(水)に、浅沼隆理事による第2回講座が開催されました。浅沼理事は、光太郎先生が花巻に住んでいた頃小学生でした。お父様が地元山口小学校の校長先生であったことから特に交流が深く、沢山のエピソードをお持ちです。

光太郎先生は、自給自足の生活を目指していました。子どもの目から見ても山小屋の暮らしは、決して楽なものではありませんでしたが、先生は村の人から教えてもらいながら畑作業を始めました。後々には弟さん家族に自分の畑で採れたものを料理してご馳走していたほどでした。

光太郎先生は、子どもたちを大事にし、大変かわいがってくれました。運動会に参加して一緒に走ったり、学芸会には突然サンタクロースに扮して現れ1・2年生の児童とステージで踊り、児童全員にプレゼントを配ってくれました。学校には、児童図書や楽器などが贈られ授業で使われました。

先生も楽しんでおられました。

子どもたちや村の人々との交流は先生にとって温かいホッとする時間であり有意義なものだったと思います。光太郎先生との思い出は、山口の子どもたちにとっても、大きな宝物になって残っています。



浅沼理事や子どもたちが、光太郎先生とふれあった様子やエピソードの数々は、記念館に配置しているフリー冊子「**たかしとせいいち ぼくたちが出会った光太郎先生**」にも掲載されています。記念館においでの際に、是非お手に取ってご覧ください。

NEW 「正直親切」手ぬぐい

「正直親切」は、光太郎が地元の山口小学校が分校から昇格開校した際、校訓として児童に書いて贈った言葉です。今でも、旧山口小学校跡地入り口に掲げられています。光太郎と児童との交流のエピソードは沢山あります。今回はそれらを、消しゴムはんこで表現し手ぬぐいにしました。100cm×36cmと少し大きいサイズで、様々なシーンに活躍してくれる可愛らしいデザインです。

